

ベーシックウイング

中学 国語

古文 第1回 古文の読解 基本1 イン트로

次の文章を読みましよう。() 内は、直前の部分の意味を示す。

おほかみ、ある日、獲物がなくて飢ゑに及んで、一匹のうさぎを追ひ、
ここかしこを駆けめぐり、ある山里に賤しづが庵いほり（貧しい者の家）の軒端のきばに
寄り添うて聞けば、小さい子の泣くをすかすとして、その母、「かまへて、
泣かば、おほかみにやらうず（やってしまうよ）」と言ふ。おほかみは、
これを聞き、まことかと思つて、「あつばれ①これはよいしあはせかな。」
と待ちかけてゐれば、日もやうやう暮れ行きぬ。おほかみなほも待ちた
れど、子をばくれいで（くれないで）、あまつさへ母の言ふやうは、「あ

らいとほし②のものや、氣aづかひするな。たとひおほかみが来たりとも、
そいつめを打ち殺して、皮をはいでのけようぞ。」と言ふ。そこでおほ
かみの思ふやう、「さりとは何とまあ一口両舌いちこうりょうぜつ（うそつき）なものぢや。
初めはくれようと言つたが、今はまたひきかへて、身bを殺さうは、やれ、
皮をはがうはなどと言ふか。」と言つて、すごすごとそこを立ち去つた。

（『伊會保物語』による。）